

「教育講演会を終えて」

ひかりの子幼稚園

2021年7月

先日鈴木正敏先生の教育講演会が行われ約60名の方が参加してくださいましたこと、心よりお礼申し上げます。

鈴木先生は朝のクラスの活動に参加し、子どもたちや担任の様子を見て回り、カメラに収め、そこから見えてくる子どもたちの成長を講演会でお話してくださいました。

○ 今年交野市はプールが禁止となり「どんな水遊びをしたいか」各クラスで話し合いがありました。年長組のあるクラスは、砂場の赤い滑り台の上からホースで水を流し「ウォーターズライダー作り」を考えました。まずは園長に「こういう計画でやりたい」と設計図を見せながら交渉。(園長:「わあーそんなこと考えたの！素敵だなあ！やらせてあげたいなあ、私も滑ってみたいなあ！・・・。’)しかし安全面を考えると残念ながら滑り台は認められない。「砂場に大きな山を作ってその上にシートをかけて滑る、こんな方法はどう？」と園長が提案すると、子どもたちはなかなか引き下がらず、滑り台の安全対策案を必死に考え提示してくる。それだけ真剣に考えた証拠と胸が詰まる・・・。「今の砂場の砂だけでは大きな山は作れないけれど、『真砂土』という固めやすい土をトラック1杯分買うから、自分たちで滑り台をつくるのも楽しいかも」とさらに提案すると、子どもたちはようやく「それもいいかも」「トラックで土を買うんだ」「すごい」「楽しそう」と気持ちに折り合いをつけ、ようやく納得してくれました。毎日小雨の降る中、担任が大きなスコップで掘り返した土を、子どもたちが小さなスコップで山にしていく地道な作業が始まりました。それを違う学年の子どもたちが手伝う姿もありました。

講演会の日はこの経緯のあった中で、子どもたちはいよいよ来週に迫った「本番」の日に向けて「当日持ってくるもの」の確認のまっ最中でした。

まずはスライダーの日は服が濡れるので、着替え袋の中に服が十分あるかの確認をしようということで全員が動き出したのですが・・・。一斉だと靴箱の前に人ががいっぱいになることに気づいた子が、「まずは女の子からどうぞ、男はじゃんけんごっこして待ってようぜ！」と提案し、スムーズに点検ができたという場面がありました。

※「ウォーターズライダー作り」に向けて子どもたちがしてみたいことをこれだけ話し合い、
大人が一步下がって支えてやっている園はなかなかない。

何かを知っている子でなく「問いを立てられる子」

「答えのないことに立ち向かい、探求すること」ができていて感激しました。

今しかやれない泥遊びを思う存分楽しめる環境がすばらしい。～鈴木

真砂土 2トン



完成

○ この日は「熱海市伊豆山土砂災害」の平和を祈る日でした。
年少組のクラス礼拝で高陽牧師が「私たちは被災地に行ってお手伝いすることはできないけれど、お祈りや献金をすることができるんだよ」と話してくださいました。

※こういう人のために祈るという気持ちが小さいときから子どもの心の中に育つことはとても大切なことです。そういう環境がひかりの子幼稚園にはありますね～鈴木



○「自分の野菜を育ててみたい」という子どもの声から、牛乳パックで育てた二十日大根が収穫の時を迎えた年中クラス。「自分たちだけで食べるのではなく、小さいクラスにも分けてあげたい。」その思いを伝えるに給食室へ相談しに。翌日の給食の味噌汁の具として提供されました。

※「小さい子にも食べさせてあげたい」これはひかりの子ならではの活動です。

**異年齢との交流、協力を求めれば園内の誰もが助け手になってくれる安心感、
「感謝していただく」食育につながっています。～鈴木**



以下講演会に参加された保護者からいただいた感想をご紹介します。

○うちの子どもたちは園の出来事を積極的に話してくれる子ではなく、「参加せずに見ている側」の子だと思います。今は見ている側でもひかりの子の園の環境、人間関係の中でたくさんのことを吸収し、自信をつけていつか今よりもっといきいきと生活できるようになるかなと楽しみにもなりました。

普段の生活ではどうしても親が決めてしまう、教えてしまうことが多くなってしまっていますが、「一緒に考えることの大切さや意味」も知ることができました。一歩下がって見守ること。時間や心に余裕がないとなかなかできないときもあると思うのですが、「無理な時は無理でもいい。できるときに話を聞いてあげて」という言葉に少しでも実践していけたらと思えました。明日からまた子どもたちとじっくり何かを話したり、楽しんだりしたい、そう思うことができるお話でした。

○先日ちょうど「5歳児向け共通教育プログラム」を文科省が作る方針であると言うニュースを見て、ひかりの子幼稚園はどう取り組まれるのか気になっていたところでした。鈴木先生から実例を挙げながら既に園として取り組まれている事を聞き安心したのと同時に、改めて先生方や

職員の方々に感謝した次第です。知識ばかりを詰め込むだけでなく、「発想力」を持って自分で考え行動に移す大切さ、集団生活の中で初めて身につく学び方、そしてそれが人生の雛形となるという事が非常に印象的でした。それを日常の保育の中で積極的に先生方取り入れて下さり、それによって保育の質を常に向上させて下さっている努力もよくわかりました。子供達のやりたい気持ちを常に尊重して下さい、また個人個人を認め愛情持って受け入れて下さってる事に改めて感動しました。

先日発生した熱海市での土砂災害のニュースをテレビで観る度に、子どもが「こんな悲しいニュース観ると私も悲しくなる。かわいそう。」と言います。小さいながらもこのニュースに関心を持ちその内容を理解しようとしています。担任の先生も説明してくれたと言い、幼稚園児だからではなく、ちゃんと丁寧に説明して下さい、また園で取り組まれている「縦の繋がり」も通して、子どもも自然と相手を想う気持ちが芽生えているのだと確信しています。

○ひかりの子幼稚園に入園して本当に良かったと実感するお話でした。自分の子どもにも自分で考えられるように、意見を尊重しながら…とは気持ちだけは人一倍に思っているのになかなか余裕を持って関わるのが難しく…笑 これから子ども達が園生活の中で大きくなるにつれてどんな成長を見せてくれるのかとても楽しみにしています。

○ひかりの子幼稚園での生活の中の学びにとっても魅力を感じました。そして昨年と同様、子ども発信の取り組みや、子ども達の姿の受け止め方があたたかく素晴らしすぎて、(恥ずかしながら家ではこんなにじっくりとわが子の姿を見つめながら過ごせていないなあと反省…)家庭でのわが子との過ごし方を考える良い機会となりました。

何事も親が先回りして済ましてしまいそうになるのですが、自分で考える機会を見逃さないようにすること。そして子どもの今の姿にしっかりと目を向けられるよう、私自身の心の余裕も持てるよう努めたいと思いました。夏休みには、お家時間を有効につかって、子どものやってみたいことを家族で楽しみたいと思います。ありがとうございました！

○子どもたちの姿を見ながら、そして鈴木先生のお話を聞きながら、ますますひかりの子幼稚園のことが大好きになり、こちらに通わせていただいて本当に良かったと思いました。ウォーターズライダー作りの裏話もたくさん聞けて、テレワークで休憩中の主人と一緒に、「本当にすてきな園だね～、先生たちすごいね～」と感動しておりました。

日々の保育の中で、子どもたちのやりたいことをやり尽くさせてあげたいという先生方の熱い想いに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちは本当に幸せです。

鈴木先生のお話では、「自分たちで決めて、自分たちで考え、真実に迫る探求を行うことが、子どもの学びを深める」とありましたが、それを日々の保育の中でしていただいていることがとてもよく伝わりました。また、子どもたちの問いに対して私たち親は、「なんでだと思おう？」と聞いたり、「調べたり考えたりすることってステキ！」だとか、「答えのないことも世の中にはあるんだよ」といったことを伝えてあげてねというお話は、今日からすぐ実践しようと思いました。(ちょうど子どもがなんでなんで期だったので)鈴木先生の「時間があれば、余裕があればいいですよ」というお言葉には、とても救われた気持ちがしました。これからの子どもたちの成長が、今からとても楽しみです。

○小学生の上の子が先日個人懇談で、「授業でも休み時間でも、本当に楽しそうに積極的に取り組んでいます。お友達や私が困っていたら、自らすぐに手伝ってくれます。自分でよく考えて行動できています。」と担任の先生がおっしゃって下さいました。鈴木先生のお話を聞いて、ひかりの子で先生方が蒔いてくださった種がしっかり芽を出しているんだなど改めて思いました。子どもたちの将来が楽しみです。毎日バタバタしてしまっていて、なかなか家庭で子どもたちにゆっくり向き合う時間が取れず、私自身も悶々としていますが、もっと今を大切にしようと思いました。何かを「一緒に考える」だけでも、母子一緒に時間を共有できるのではないかと、今私が困っていることに対する解決のヒントを鈴木先生からいただいたような気がします。「問いをたてられる子」、「自分で決めて、自分で考えて、探求できる子」になってくれたらいいな、私もそれに繋がる子育てができたらいいなと思いました。改めて、ひかりの子にしてよかったなと思いました。

○昨日の鈴木先生の講演会、ありがとうございました。3年連続で参加させていただきました。毎年、こひつじさんの素敵な取り組みについてお聞きする度に、“自分の子どももこうなれるのだろうか？”とっていました。2年前、なかなか幼稚園のトイレに行けなかった我が子が、クラスで話し合いをしたり、たくましい年長さんになっていることをとても嬉しく思います。いつも見守ってくださる先生方のおかげです。子どもは昨日、「楽しい話をしてくれる先生が来た！（鈴木先生のことです）」と言っていました！素敵な講演会をありがとうございました

○子どもはなかなかお友だちの中に入っていきるのが難しく、慎重に様子を見ているタイプです。「やってみたらいいのになあ」と母として思うこともありましたが、お友だちの活動を見ることも一つの参加の仕方であり、大事なことだと先生の話の伺い、それでいいのだとほっとしました。焦らずゆっくり見守ることの大切さを教えていただきました。またウォータースライダーのお話にも心温まりました。こどもたちのやりたいことが実現できるように、先生方が一生懸命考えられている様子にとっても感動しました。

○いつでも子どもの育ち、成長を考えて下さり、そんな幼稚園へ子どもを通わせる事が出来て幸せだなと感じています。このような機会があると、日頃の私の子どもへの関わり方を反省と共に振り返るきっかけともなっております。

○園での様子を写真で紹介して下さったり、異年齢の子ども達の話聞いて、これからの成長が楽しみになりました。ウォータースライダーの話もとても興味深かったです。子どもの気持ちに寄り添うだけでなく、なんとか叶えようとする姿勢にびっくりしました。母親は家事で忙しいから毎回子どもの気持ちに全部応えようとしなくてよいと聞いたことがあります。園の先生方も毎日の仕事に加えて、コロナ対策などでお忙しいはずなのにじっくりと向き合うのには何かコツがあるのでしょうか？ 子どもは担任の先生をはじめ、バスの運転手さんも、添乗の先生も大好きです。ひかりの子幼稚園の先生方の子どもの向き合い方など機会がありましたら、ぜひ聞かせてもらいたいと思いました。

○鈴木先生のお話を伺って印象に残った言葉が、ひかりの子の様子を「子どもたちのやりたいがつまっている」とおっしゃったことです。本当にその通りだなあとと思います。先生方が子どもの「やってみてみたい」の芽を見逃さず、きちんと拾い上げ、子どもたちはどうすれば実現できるか、どうしたらもっと楽しくなるか、一緒に考える。先生の質の良い手助けがあってさらに「やりたい」が膨らむ……。そんな姿が当たり前日々の中にある、何とぜいたくなことかと思えます。先生方は日々お忙しいだろうにどうしてこんなに子どもとゆったりと交わって下さることができるのだろうと感嘆してしまいます。

先生方が日々のプログラムをこなすことよりも、子どもたちから発信されることにアンテナを張り、創意工夫を凝らして対応されることを大切にしておられるからだと思います。それが年々素晴らしく、充実していく様を見ていると、先生方が努力されているのだろうと頭が下がります。

一方で日々の雑事に追われ私は子どもの小さな心の動きを見逃したり、気がつかないふりをしてしまったり、そんな生活の中でひかりの子の先生方が子どもたちと過ごして下さる時間を思うと本当に安心します。子育てを助けて下さる仲間がここにいる、先生にしかできないこと、親にしかできないことをともに手を取り合っているのだと感じることができるからです。こどもたちや先生方が「やらなければならない」プログラムから解放され、少しでも多くの時間を子ども「やりたい」に費やしてほしいと願っています。

～鈴木先生は「3歳は生活を楽しむ」「4歳はいろいろな活動に友達と触れる」「5歳はそれを広め、深める」時期ですとおっしゃいました。でも「見ているだけ」の参加もいいのです。自分なりに子どもは解釈しています。

3歳の時何も活動に参加しなかった子が、大人になったら歌手やダンサーになっていたという話はいっぱいあります。こだわりが強くてみんなと一緒に前に進めない子もいていいのです。でもそのこだわりが後に頑張れる強さになることもあるのです。

小学校は基礎知識、技能を身に付けるところですが、小さいときにこそ「祈ること」「願うこと」「分かち合うこと」「人のためにできることを共に考えること」そういう環境の中でこそ「生きる力」が育つのです～

と言われたことが、今回のお話の中で特に私の心に残りました。

保護者の皆様と鈴木先生のお話を共有できたこと、子どもの姿から学ぶべきことはたくさんあると、改めて思わされた研修会でした。

明日から幼稚園は夏休み、保育園は通常保育です。それぞれのご家庭で様々な夏の楽しい計画があると思いますが、お一人おひとりに神様からのお守りがありますようにと祈っています。

始園の日、また少し大きくなったみんなに会えることを楽しみにしています。

1学期の保護者の皆様のご協力とご支援、心から感謝いたします。

園長 松本直子